

中国幼稚園における朝の歌について

李 智基 松本 亜香里

On Morning Songs Sung at a Kindergarten in China

Zhiji Li, Akari Matsumoto

Yokoi, a former professor, took a video at Sanmo Kindergarten in Xining, China, in July 2007. In this video, we can watch the children sing songs to the teacher's piano accompaniment. They sing every morning and also before returning home. Teachers make sure the children are healthy watching them sing songs. When Matsumoto was a kindergarten teacher, she also did both playing and watching. When kindergarten teachers want to check the condition of their health, they use this music teaching practice. There is another way in which two teachers are required. That is, one plays the piano and the other watches them. We give careful consideration to the data given by Yokoi.

はじめに

ほとんどの保育の現場では、朝と帰りに歌唱活動が行われている。朝の歌唱活動の目的としては、健康視診が考えられる。訪問した三毛幼稚園（以下、本園と略称）でも、ピアノ伴奏の下で子どもが朝の歌唱活動をしていた。ピアノを弾きながら健康視診をするには、一つに、保育者は子どもを見ながらピアノを弾けなければならない。もう一つの方法としては、複数担任で一方がピアノを担当することで、もう一方が健康視診をすることが可能になる。しかし、実際は、諸業務（帳面を確認するなど）をしなければならないため、後者は効率が悪くなるため好ましくない。本園でも一人担任で、ピアノを弾きながら、子どもの様子を観察していた。本稿では、平成 19 年 7 月に前本学教授横井一之が中国幼稚園を訪問した際、撮影をしたデータをもとに、その様子をまとめ、考察をする。

なお、全体のまとめを李が、朝の歌の採譜と、その分析・考察を松本が行った。

1. 朝の歌唱活動

本園を横井が訪問した日は、10分ほど歌唱活動がなされていた。その活動内容は、以下のとおりである。

(1) 律動 朝の歌 (3) 0分8秒

①内容

律動のための曲である。音階が上がる部分を「準備はできましたか」という意味で保育者がピアノで弾き、その答えとして、子どもが下がる部分で歌って答える歌である。2回弾き終えるまでに歌に入る態勢をとる。

②歌唱の様子

最初に和音が弾かれた段階で、子どもたちは自分の席の方へ向かい、2回弾く中で、席に着いて手を膝に置いて待つ状態になった。子どもたちは、ピアノが弾かれたらすぐに動いていた。

朝の歌 3(律動)

採譜 松本 亜香里

(先生) 座り ました か (子) 座り まし た

譜表1 朝の歌3 (律動)

(2) 歌あそび 朝の歌 (1) 0分14秒

①内容

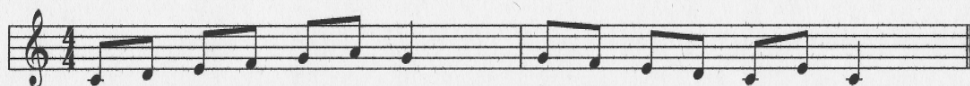
挨拶のためのうたである。音階が上がる部分を保育者が「みなさん、おはようございます」と弾き歌いをし、音階が下がる部分を子どもが「〇先生、おはようございます」と歌いながら挨拶を返している。

②歌唱の様子

子どもたちは保育者の顔を見て歌い、保育者は子どもの様子を見て、2回繰り返し、子どもは、1回目よりも大きな声で挨拶のうたを歌っていた。

朝の歌 1

採譜 松本 亜香里



(先生) みなさん おはようございます (子) ○先生 おはようございます

譜表 2 朝の歌 1

(3) 歌あそび 朝の歌 (2) 0分30秒

①内容

音階が上がる部分を保育者がピアノを弾きながら「○○の鳴き声は？」と歌い、音階が上がる部分を子どもがその動物の鳴き声をしながら歌うものである。これを、保育者は、子どもの様子をみながら、様々な動物を提示し、展開していき、5回繰り返した。

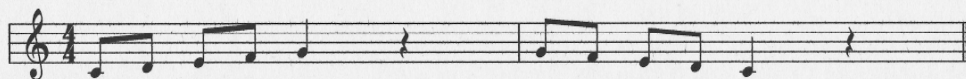
②歌唱の様子

動物の鳴き声を当てるとともに、動作を付ける子どももいた。今回は、5回中猫が3回提示されたが、これは子どもの様子を見て、保育者が臨機応変にしている。

また、保育者の「○○の鳴き声は」という問いを聞いていなければ、その後に続く答えが歌うことができないので、子どもたちは集中して聞いていた。

朝の歌 2

採譜 松本 亜香里



(先生) いぬの声は

(子) わん わん わん わん わん

(先生) ネコの声は

(子) ミャオミャオミャオミャオミャオ

(先生) こたりの声は

(子) チッ チッ チッ チッ チッ

譜表 3 朝の歌 2

(4) 律動 朝の歌 (3) 0分5秒

①内容

保育者が再びこの曲を2回弾き、子どもを落ち着かせる。

②歌唱の様子

歌あそびから歌唱に移るため、「律動」を弾いた。子どもたちは、落ち着いて前を向いて座っていた。

朝の歌 4

採譜 松本 亜香里

こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる
こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる

こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる
こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる

こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる
こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる

こぐま こぐま こぐま こぐま 蒸しパン 食べる
こぐま こぐま こぐま こぐま お腹 いっぱい

譜表 4 朝の歌 4

(5) 歌唱 朝の歌 (4) 1分0秒

①内容

小熊が蒸しパンを食べ、最後にはお腹がいっぱいになるという内容である。

「小熊」という言葉がテンポ良く繰り返されるところに面白みのある歌である。

②歌唱の様子

小熊が蒸しパンを食べるとい歌詞で、子どもたちは蒸しパンをちぎって食べる様子や満腹になる様子を真似ていた。

(6) 歌唱 朝の歌 (5) 1分0秒×2回

①内容

子どもの目線で書かれた曲で、母親に対する感謝の気持ちを込められた曲である。歌詞は、共働きという現代の社会状況を含んでおり、母親が家事の他に仕事をしているという設定になっている。

ペンタトニック（五音音階）の歌で、異国情緒を感じさせる。

②歌唱の様子

「やさしいママ」というところや「お茶をどうぞ」、「キスさせて」というところに動作を付けて歌っていた。

1回目は全員で歌唱をし、2回目は、男女一人ずつ保育者に呼ばれ前に出て、全員で歌う。

(7) 歌あそび 朝の歌 (6) 0分25秒×2回

①内容

「キラキラ星」として、日本でも親しみのある歌である。

ピアノ伴奏の前奏部分の、「F-F-E-E-D-D-C」の和声進行は、馴染みの「F-F-C-C-G-G-C」ではなく「D-D-C-C-D-D-C」であった。

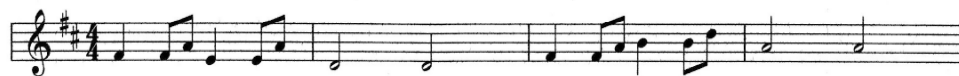
②歌唱の様子

「キラキラ星」の歌に伴う動作は日本と同様で、子どもたちは星が輝く様子を手で表していた。

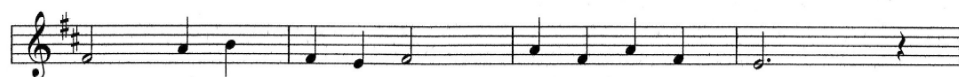
1回目は、座ったまま振りつきで1番のみ歌唱をした。2回目は、全員立ち振りつきで1番のみ歌った。2回目に、保育者が数人指定し、前に出てこさせた場面では、何人か挙手をし、意欲を示していた。

朝の歌 5 (ママの歌)

採譜 松本 亜香里



わ たしの や さしい マ マ し ごとおわっ て か えっ た



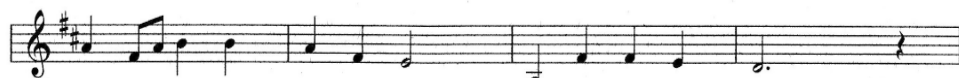
いち に ち はたらい て つか れた で しよ う



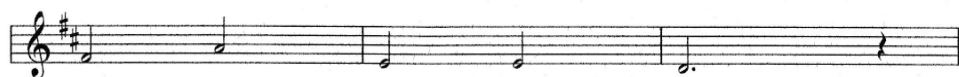
マ マは や く すわ っ て マ マは や く すわ っ て



お 茶 を どう ぞ マ マーキ ス さ せ て



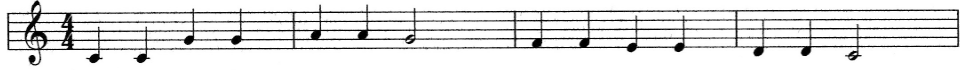
マ マーキ ス さ せ て 私 の や さしい マ マ



私 の や さ しい マ マ

譜表 5 朝の歌 5 (ママの歌)

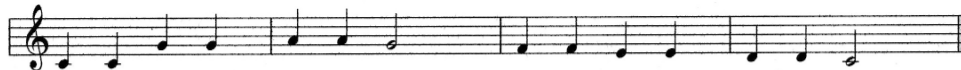
朝の歌 6 (キラキラ星)



キラキラ ひかる おそらの ほしよ



まばたき しては みんなを みてる



キラキラ ひかる おそらの ほしよ

譜表6 朝の歌6 (キラキラ星)

(8) 律動 朝の歌(3) 0分9秒

①内容

保育者がピアノで2回弾き、子どもを落ち着かせる。

②歌唱の様子

「キラキラ星」が、動きのある歌だったので、一度子どもたちを落ち着かせる意味で「律動」の歌を歌った。集中が切れてきたのか、数人話している子どもがおり、それに対し、注意する子どもの姿がみられた。

(9) 歌唱 朝の歌(7) 0分41秒×2回

①内容

この曲もまた、子どもと母親の関係を書いた曲である。アヒルの子どもが迷子になり母親を求めて泣いているところ、家に送ってあげようという歌である。

歌詞の内容から見ると、保育内容「人間関係」にもつながると思われる。

②歌唱の様子

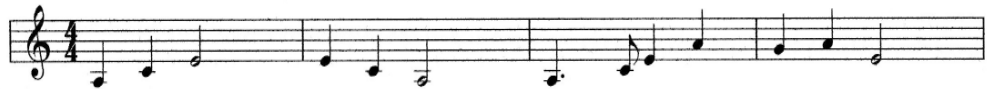
1回目は、みんなで歌唱をし、2回目は、保育者の指示の下何人か前に出て歌っ

た。

テンポが途中から速くなる歌で、歌が追いつかない場面がみられた。それに加え、子どもには少し低音域すぎたのか、音程が取れていなかった。特に、Aの音がとることができていなかった。

朝の歌 7

採譜 松本亜香里



い け の そ ば の 木 の 下 に き れ い な ア ヒ ル が い る



ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ 泣 い て マ マ を 呼 ん で い る い け



の そ ば の 木 の 下 に き れ い な ア ヒ ル が い る ラ ラ ラ ラ ラ ラ 家 に 送 っ て あ げ よ う

譜表 7 朝の歌 7

2. 分析・考察

本園の歌唱活動の特徴としては、律動の曲が随所でみられるところである。「律動」から「あいさつの歌」や「歌あそび」へ、「律動」から「歌唱」へ、そして「歌あそび」から「律動」、「歌唱」へと移行し、活動を終了していた。日本の保育現場では、このように区切られた活動はあまり見られず、「あいさつの歌」から「歌あそび」、「歌唱」、「歌あそび」というように、流れるように歌唱活動をしている。

保育者と子どものコミュニケーションを見ると、アイコンタクトや間の言葉の掛け合いだけでなく、歌の中で保育者の問いかけに対し子どもが歌で答えるというものが数曲見ら

れ、(3)の歌唱(朝の歌2)では、保育者が子どもの反応を見て、提示する動物を考えていた。このことは、日本の保育内容「表現」のねらい(3)「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」に当たると考えられる。また、内容の取扱い(2)「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること」にも通ずる。

子どもに見られる特徴としては、日本同様、保育者に前で歌うよう指示されると、「自分も認められたい」という思いから、次から積極性をアプローチする姿が多く見られた。それに対し、保育者は声かけや活動で返している。荒木(2000)は、「音楽が、幼児の心に入り込む状況は、個々に異なる。そして、その溜め込んだ音楽を表現する方法も、個々に異なる。それらは、個性とも通じるものである。しかし、保育者は、そのような営みを幼児から奪ってはならない。それらを認め、共感して、その姿から何がその幼児の豊かな援助になるかということを見つけ出す必要がある。そこから音楽的援助は、始まるだろう。」と述べている。高森(2004)も、「子どもたちの自然発生的な歌心を引き出す発想を持って指導にあたる。集団生活のなかで、歌いたい雰囲気を起こさせる環境を準備するのである。それは、保育者が、歌好き、音楽好きであって、歌う、ピアノを弾くという喜びを、生活のなかでいつのまにか示しているということである。保育者の普段の現場の生活のなかで、音楽したり歌ったりする雰囲気がなければ、子どもたちに歌おうとする意欲は起こらない。」としている。このように、一人ひとりの発するものを受け止め、子どもにとって活動が意義のあるものにするよう、保育者は視診だけでなく、配慮をしなければならない。

また、本園の子どもの歌唱力を見ると、音程が比較的正確に取ることができていた。要因としては、ほとんどの曲が単純な旋律で繰り返しが多いことが考えられる。「朝の歌5」と「朝の歌7」については、音域は広がるものの、全体を見ると平坦な旋律が多い。日本の保育現場で朝の歌といえば、「おはようのうた」が挙げられる。これを見ても、始まってから2小節目ですでに1オクターブの広がりが見れているため、音程を正確に取るとは困難になる。

以上のことから、本園での朝の歌唱活動は、健康視診とともに、子どもの実情に合った活動と考えられる。本稿で注目したいのは、「律動」の役割である。歌詞の訳をした趙も、幼少時の記憶によると、保育の歌唱活動では「律動」の曲が入っていたようだ。また、趙は中国において保育の現場に携わっていた。その時にも、「律動」の曲はあったという。これは活動に区切りをつけて、子どもの集中を途切らせないためだと張は考える。実際に、松本が以前携わっていたT保育園で「律動」を入れて歌唱活動を試みたらどうであろう。T保育園の保育士に意見を伺ったところ、生活の流れの中の音楽活動も、やはり流れが大切になるため、「律動」を入れる意義に対し疑問を述べた。これは、中国と日本の文化の違いが関係しているようである。今後、このような比較もしていきたいと考えている。

おわりに

保育現場で行われる朝の歌唱活動の目的として、子どもの健康視診や保育内容「表現」をはじめ、「言葉」、「人間関係」が考えられる。本園の音楽活動で目に付いたのは、「律動」という社会的目的である。これは本稿に取り掛かってはじめて分かったことで、保育活動で流れを重視する日本ではあまり見られない。今後の課題として、日本の保育現場での歌唱活動の中で「律動」を採用した際、どのように活動が変化するかを考察していきたい。

謝辞

本稿のデータは、現東海学園大学教授横井一之氏が平成 19 年 7 月に中国を訪問した際に撮影したものを提供いただいた。また、データからの採譜の段階で、中国語から日本語への訳を、本学学生の趙 瑩さんにお手伝いいただいた。両氏に感謝を申し上げたい。

引用・参考文献

- 1) 大畑祥子編, (2000): 保育内容 音楽表現 [第 2 版], 建帛社, p 51-75, p 13-18
- 2) 高森義文編, (2004): 保育内容シリーズ⑤【音楽】, 一藝社, p 82-97
- 3) 梁島章子・倉持洋子・小林洋子・大森幹子・島地美子著, (2003): 感性と表現のための音楽, 学術図書出版社, p 29-50
- 4) 井戸和秀編, (2001): 幼児の音楽的表現とその環境, 大学教育出版, p 59-107
- 5) 森上史朗・吉村真理子・飯島千雍子編, (1996): 演習保育講座第 10 巻 保育内容表現, 光生館, p 1-24